

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2025年2月25日】第239号



宮古島での宿泊学習へ

2月17日(月)から3泊4日で、6年生は宮古亜熱帯農場宿泊学習に行きました。3月の卒業証書授与式を前に、最後の、そして大きな学校行事となります。保護者の皆様にお見送りいただいて羽田空港から飛び立った初日、宮古空港では宮古亜熱帯農場長の杉原教授にもお出迎えいただき、まずはバスで宮古島市熱帯植物園へ行きました。様々な熱帯植物を順番に観察し、メモをとったりスケッチをしたりしながら行動班ごとに自由に散策しました。その後は、宿泊するホテルへ移動し、ホテルに到着後は、真っ白な砂が美しいビーチへ。間近には来間島と来間大橋も見えて、沖縄県宮古島に来たという実感がわきました。

2日目は東京農業大学宮古亜熱帯農場へ。農場の皆様にお迎えいただいた入場式後、1つのグループは、畑でヤムイモの収穫をしました。一人最低1個、あとは好きな数の珍しいヤムイモをお土産にいただきました。もう1つのグループはさらに2つに分かれ、1グループはカカオやコーヒーなどを見せていただきました。栽培維持しているたくさんのコーヒーノキの品種は、副農場長の菊野先生が種から何年も育てて、ようやく実がなったそうです。生豆の播種を実習し、数粒ずつの生豆を家庭での栽培用にプレゼントしていただきました。残りのグループは、バナナ、サツマイモ、ヤムイモ、タイモ、サルナシなど、在来種を中心に多数の品種を維持している様子を観察しました。絶滅しそうな品種・系統を探し求め、それを栽培したりする苦労や楽しさも感じたのではないのでしょうか。午後は東平安岬へとイムギーマリンガーデンに行き、曇り空がやや残念でしたが海の美しさや植物の多様性も見ることができました。

夕食後は、宮古亜熱帯農場の職員による「宮古学」の授業がありました。宮古島の紹介、昔からの文化を大切にしていること、水の無い島だったが地下ダムができて11月から5月の間にいろいろな野菜を作り、カボチャを出荷するなど、亜熱帯の気候を有利に働かせているなどの学びがありました。続けて、地方在来系統や品種の大切さを説明していただき、それぞれのお家にひっそりと残っている絶滅寸前のアワを探し出して、それを増やし、そのアワを使ったお供えやお酒を再び使って伝統の祭祀を復活させるというロマンのあるお話もお聞きしました。

3日目は来間大橋を渡って来間島へと往復したあと、オルタナティブファームという場所でサトウキビやバナナについて学び、黒糖も作りました。午後は、宮古島市総合博物館と地下ダム資料館を巡り、宮古島についての理解を深めました。

最終日は、島尻のマングローブ林を歩き、さらに、宮古島最北端の池間島へと渡った後、伊良部大橋を渡って伊良部島へ。伊良部島からさらに下地島へとめぐりました。また伊良部島の佐和田の浜では、日本の渚百選にも選ばれたという、津波で運ばれた巨岩が点在する風景を前に、全学年での記念撮影も行いました。

午後の飛行機で東京へ帰るまで、子どもたちには農場長や農場職員の吉川さん、玉木さんが同行され、子どもたちには折々に畑の作物、島の小学校、製糖工場、特有のお墓、暮らしなど宮古島について楽しいお話をしてくださいました。宮古亜熱帯農場の皆様のお力には心から感謝しながら、子どもたちは保護者のもとに笑顔で帰りました。

保護者の皆様には、子どもたちからこの宿泊学習の思い出をゆっくりとお聞きいただくようお願いいたします。校長もまた、子どもたちの様子をみながら成長を感じたり、今後の指導につなげる課題を見出したりした4日間でした。

留学生と話そう(続く)

先々週までの4年生に続き、先週は2年生と1年生の各学級が、留学生を迎えて、稲花タイム「留学生と話そう」が行われました。校長は金曜日に行われた1年生の「留学生と話そう」に参加しましたが、留学生が丁寧に母国の紹介をしてくれたあと、1年生ながらしっかりと英語での質疑応答をしている姿には感心しました。GrapeSEEDのプログラムによる英語の勉強を続けているので、文法は違っていても思った言葉をつなげて英語を話そうとするところに、学習の成果が表れています。その物怖じせず発言するところも、素敵でした。今年は、アゼルバイジャン、ケニア、ミャンマー、ハイチ、タンザニア、ボリビア、ブラジル、カンボジア、中国、ザンビア、ナイジェリア、そしてインドネシアの学生さんが、農大稲花小に来てくれました。留学生の皆さんが、日本で、そして東京農業大学で楽しく学べることを応援したいと思います。

お茶に親しむ

2月18日(火)は3年生が、19日(水)は2年生が、東京農業大学茶道部の学生さんを迎えて稲花タイム「お茶に親しむ」が行われました。3年生は昨年に続けて2回目の茶道体験です。今年は一人1服ずつのお茶を点て、友だちに振舞いました。2年生は初めての茶道体験で、学生さんがお茶を点てるのを見たり、様々なお茶やお道具の説明を聞いたり、袱紗捌きを習ったりしました。もちろんハイライトは、和室に正座してのお茶会です。お干菓子をいただいてから、お茶を味わいました。2年生にはちょっと渋いお茶ですが、お菓子の甘さとの対比も楽しめたのではないのでしょうか。

授業の最後には、茶道部の部長である東京農業大学造園科学科教授の服部 勉先生から一人一人が修了証をいただきました。3年生は、昨年2年時に頂いた修了証よりお茶の実が一つ多く描かれた修了証が渡されました。

大切な健康管理

本校の教職員には、子どもたちの安全を守り、また、教育の質を高く保つためにも、自らの心身の健康を維持し、ベストな状態で子どもたちに接することを求めています。子どもたちと一緒に元気に活動できないとき、体調が悪いときは、休養を取ることも大切だと考えています。

体調を整えて登校することの大切さは、子どもたちも同じです。疲れたまま、風邪気味なまま、お腹の調子が悪いまま、無理して登校してきても、授業に向かうことができません。途中で、お家の方にお迎えにきていただくことにもなりかねません。またケガが十分に治っていないときも同様です。「体育は見学」とご家庭からお知らせがあるような場合も、休み時間や廊下・階段などで活発に動き回り、もう一度ケガをしてしまう恐れがあるからです。体調が万全でないときは登校前に慎重な判断をすること、また、ケガがなおるまではどう振舞うべきか、ご家庭でもお子様に十分にお伝えいただくことをお願いします。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子